

農業体験型修学旅行が参加者の意識に及ぼす影響因子の検討 Influences of agricultural experiences school trip on the consciousness changes

○山本 忠男*・後藤 陽子**

YAMAMOTO Tadao, GOTO Yoko

1. はじめに

平成 12 年度に導入された「総合的な学習の時間」により、生徒の自主性を育む体験学習が推奨され、全国の学校で取り入れられるようになった。それに伴い中学校、高校の修学旅行で農家民泊・農業体験（以下、農業体験型修学旅行）を実施する事例が増えてきた。農業体験による教育的効果の研究は、小学生を対象としたものが多く、中・高校生の農業体験型修学旅行を取り上げた研究事例は少ない。本研究では高校生を対象とした農業体験型修学旅行後の意識変化から教育的効果の評価とその意識変化の要因について考察した。

2. 方法

平成 24 年度に農業体験型修学旅行で北海道・長沼町を訪れた広島県の 2 つの高校の 2 年生 (A, B) と東京の高校の 2 年生 (C) ・

3 年生 (D: 前年度に修学旅行を実施) の 4 グループを対象にアンケート調査を実施した。アンケートの内容は生徒の属性や体験内容に関する設問と体験前後の意識変化に関する設問から構成され、後者の設問は澤内ら (2009) の先行研究を参考にした。生徒の属性や体験内容のうち、意識変化に影響を与える要因を統計的手法によって判断するとともに、教育的効果を高めるために望ましい体験プログラムを考察した。統計処理は EXCEL ならびに R を用いた。

3. アンケート結果

表 1 のスコアは各設問について、それらを得られたかどうかを 5 段階の尺度 (5: そう思う→1: そう思わない) で回答してもらい、その結果を平均した値である。澤内ら (2009) の先行研究と同様に、「自然とのつながりの側面」「精神的側面」「社会生活の側面」の 3 部門に分けて比較したところ、「社会生活の側面」や「精神的側面」よりも「自

Table 1 Scoring of consciousness changes

自然とのつながりの側面	全体	A	B	C	P.R. *
収穫の喜びや充実感	3.96	3.99	3.73	4.21	4.46
食べ物を大切にする気持ち	4.29	4.27	4.21	4.41	4.18
自然や生き物を大切にする気持ち	4.10	4.07	3.94	4.32	4.17
食べ物や作物への興味関心	4.03	4.13	3.81	4.24	4.02
自然や生き物への興味関心	3.78	3.95	3.50	4.00	3.84
食べ物への知識理解	3.77	3.95	3.58	3.87	3.61
自然や生物の観察力・科学的知識	3.46	3.73	3.35	3.38	3.22
精神的側面	全体	A	B	C	P.R. *
明るさや活気	3.86	4.14	3.67	3.89	3.79
幅広い価値観	3.67	3.96	3.46	3.73	3.71
感性が磨かれた	3.47	3.76	3.36	3.38	3.49
積極性・自主性が育った	3.69	3.89	3.57	3.69	3.42
情緒が安定した	3.46	3.88	3.29	3.36	3.38
我慢強くなった	3.58	3.97	3.43	3.48	3.33
表現力が向上した	3.49	3.94	3.36	3.34	3.28
想像力が向上した	3.44	3.72	3.30	3.39	3.28
社会生活にかかわる側面	全体	A	B	C	P.R. *
働くことの大切さ	4.09	4.16	3.90	4.28	4.27
協働・協力の気持ち	3.95	3.99	3.86	4.03	4.21
滞在地域への定住意欲	3.62	3.93	3.40	3.68	3.69
農業への興味関心	3.73	3.89	3.49	3.92	3.63
農業への知識理解	3.73	3.84	3.56	3.87	3.63
将来を真剣に考える	3.68	3.78	3.51	3.82	3.60
滞在地域への知識理解	3.72	3.91	3.60	3.73	3.52
農業の担い手	2.72	3.16	2.46	2.72	2.46

*澤内ら(2009)の研究結果

* 北海道大学大学院農学研究院 Research Faculty of Agriculture, Hokkaido University

**兵庫県庁北播磨県民局 Kitaharima district office, Hyogo Prefectural Government

[キーワード] 数量化Ⅱ類, 教育的効果, 高校生

然とのつながりの側面」で大きく意識変化しており、教育的効果が高かった。項目別では特に「自然・食べ物の大切さや働くことの大切さを学んだ」、「協働・協力の気持ちが育った」と感じている生徒が多いことがわかった。また、同じ高校の2年生と3年生の回答から、3年生では肯定的な回答が減少し、「どちらでもない」と回答する割合が増加した。しかしながら、「自然とのつながりの側面」、とくに「自然や食べ物を大切に作る気持ち」については、一年後でも肯定的な回答の割合が高かった。

4. 意識変化の影響因子の検討

意識変化に関する設問について、各項目の「そう思う・やや思う」を肯定的、「そう思わない・あまり思わない」を否定的な回答層とし、「どちらでもない」の回答を除外し、意識変化に関する回答を従属変数、属性や体験内容を独立変数として数量化2類による統計解析をおこなった。代表的な結果をTable2に示す。総じて「自然とのつながりの側面」では農家との会話や農業体験が印象に残った生徒ほど、「精神的側面」では農業知識が高く、また農家との会話や農業体験が印象に残った生徒ほど意識の変化がみられた。「社会生活にかかわる側面」でも自然とのつながりと同様の要因に影響を受けているが、ここでは作業時間も若干影響していることが示された。

5. おわりに

農業体験型修学旅行の実施は、「精神的側面」よりも「自然とのつながりの側面」及び「社会生活の側面」の意識に影響（教育的効果）を与えることが示された。また、その効果は時間経過によって減少する傾向にあったが、「自然とのつながりの側面」では継続性が高いと示唆された。これらの意識変化を引き起こす要因は、居住地や周辺環境、過去の農業体験とは関係が無く、旅行中の農家との会話や農業体験の印象が比較的強く影響すると予想された。すなわち、教育効果の高い農業体験型修学旅行のプログラムを組む際には、とくに農家との会話や農業体験の内容（それらを実践する農家の対応）に注意する必要があるといえよう。

[参考文献] 澤内大輔;「農業体験型修学旅行に対する高校生の評価」,農林業問題研究第174号, pp.133-136,2009

Table 2 Factors of consciousness changes by using mathematical quantification theory class II

自然とのつながりの側面		収穫の喜びや充実感				
説明変数	カテゴリー	n =470	カテゴリー スコア	寄与率 (%)	有意性	
性別	男子	205	-0.35	7	***	
	女子	265	0.27			
作業内容 収穫	した	282	0.38	11	***	
	していない	188	-0.57			
(印象に残ったこと 複数選択可)	農家での生活	肯定	252	0.20	5	**
		否定	218	-0.23		
	家との会話	肯定	304	0.27	9	***
		否定	166	-0.50		
	農業体験	肯定	240	0.35	8	***
		否定	230	-0.37		
	農村風景	肯定	175	-0.23	4	*
		否定	295	0.13		
	精神的側面		明るさや活気			
	説明変数	カテゴリー	n =449	カテゴリー スコア	寄与率 (%)	有意性
近所の農地	ある	299	0.11	4		
	ない	150	-0.22			
農業用語の知識	知っている	70	0.51	7	**	
	知らない	379	-0.09			
(印象に残ったこと 複数選択可)	農家での生活	肯定	242	0.22	5	***
		否定	207	-0.26		
	農家との会話	肯定	297	0.51	17	***
		否定	152	-1.00		
	農業体験	肯定	223	0.37	8	***
		否定	226	-0.36		
社会生活にかかわる側面		働くことの大切さ				
説明変数	カテゴリー	n =487	カテゴリー スコア	寄与率 (%)	有意性	
性別	男子	220	-0.07	1		
	女子	267	0.06			
農業用語の知識	知っている	74	0.69	8	**	
	知らない	413	-0.12			
(印象に残ったこと 複数選択可)	農家での生活	肯定	256	0.10	2	
		否定	231	-0.12		
	農家との会話	肯定	314	0.35	10	***
		否定	173	-0.63		
	農業体験	肯定	245	0.37	8	***
		否定	242	-0.37		
	農村風景	肯定	175	-0.12	2	
		否定	312	0.07		

有意水準: ***<0.01, **<0.05, *<0.10